

平成 26 年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助研究調査報告書  
アナジャコおよびアナジャコ巣穴内に生息する小型生物の食性解析

清家弘治<sup>1</sup>・杉原奈央子<sup>2</sup>・高野剛史<sup>1</sup>・白井厚太郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東京大学大気海洋研究所 海洋生態系動態部門 底生生物分野

<sup>2</sup>東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター 沿岸生態分野

【はじめに】

生態系を理解するにあたり、その食物網を明らかにすることは非常に重要である。海底に形成された大型底生生物の巣穴内には、その形成生物だけでなく、様々な分類群の小型生物が共生することが知られている（例えば Atkinson and Taylor, 2005）。すなわち、海底に開いた巣穴内は、数十 cm スケールの微小生態系とも言え、その内部には固有の生物群が生息している。

本研究では、厚岸町の泥干潟の代表的な巣穴形成生物であるアナジャコ *Upogebia major*、およびその巣穴内の共生者の生態、特にそれらの食性を明らかにすることを目的に、2014 年 8 月にフィールド調査を行った。アナジャコおよび共生者の食性を調べるために、それらの炭素・窒素安定同位体比の測定を実施した。